

新年明けましておめでとうございます。

有明海再生への新たな展開が進み、次のステップへの大事な年を迎えました。

当機構が10年の目標に向けての取り組みから、折り返し点の6年目、環境省のマスタープラン、九州大学のJSTプロジェクト、佐賀大学有明海プロジェクトが完了したのを受け、これまでの調査研究をとりまとめ、現在有明海再生へのロードマップ作りを進めています。

また、「有明海のなぜ？」シンポジウムを開催し4回に亘って議論を加え、昨年12月には、諫早干拓の判決で有明海再生への関心が高まっている中、佐賀県知事や漁業者、市民をはじめ関係者とともに緊急フォーラムを開催し、今後の方向を検討いたしました。

さらに、地球環境問題が叫ばれる中、昨年秋には生物多様性条約第10回締結国際会議も名古屋にて開催され、生物多様性が一層クローズアップされました。特産種をはじめ希少生物等の多い有明海の生物多様性の維持が喫緊の重要課題となっています。

今後ますます、有明海再生への取組が重要となり、当機構としても将来に向かって、絶え間ない努力を続けていく所存であります。

新しき年の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

本年も皆様方のご支援ご指導を切にお願い申し上げます。



NPO法人有明海再生機構 理事長 楠田 哲也

有明海講座
CPDS
認定講座

◆地盤工学における干潟・海岸地形の諸問題への取り組み

～全国から有明海沿岸低平地域にかけての事例の紹介～

講師：日野 剛徳 氏(佐賀大学低平地沿岸海域研究センター 准教授)

日時 平成23年2月9日(水) 14:30～16:00

会場 アバンセ第3研修室 募集 70名

申し込み 事前申し込み制：メールまたはファックス・電話にて



入場
無料

◆「有明海のなぜ？」第5回シンポジウム ～有明海再生機構の中間報告に向けて～

テーマ：有明海的环境変化は、どこまで科学で解明されたのか

シリーズ4回及び緊急フォーラムの議論を踏まえ、これまで進められてきた調査・研究について、明らかになったこと、課題として残されていることなどを、関係者が共通の認識を持ち、共有化して、次なる再生に向けての調査研究のあり方を議論します。

日時 平成23年2月19日(土) 13:00～17:00

会場 佐賀大学工学部6号館 都市工学科大講義室(予定)

入場
無料

◆有明海再生に関する有識者意見交換会

環境省及び環境省総合調査評価委員会の委員の方など有明海再生に携わる有識者と有明海再生機構の正会員との意見交換会を開催します。

日時 平成23年2月20日(日) 9:30～12:00

会場 佐賀大学工学部6号館 多目的セミナー室(予定)

「有明海のなぜ？」シンポジウム【第3回】

～なぜ、貧酸素水塊が発生するのか～

平成22年7月31日(土)、佐賀大学工学部6号館都市工学科大講義室(佐賀市)にて第3回有明海のなぜ？シンポジウムをテーマ「なぜ、貧酸素水塊が発生するのか」と題し開催しました。

当日は、市民や研究者、行政関係者など、約110名の参加がありました。

貧酸素水塊とは、魚や貝などが生存できないほどに、水中に溶けている酸素濃度が低下した水の塊のことで、主に、海底にいる微生物が有機物を分解するのに酸素を消費することによって起こります。

まず、基調報告で貧酸素についてどこまで分かったのかについて荒牧副理事長(佐賀大学名誉教授)が報告しました。

次に、貧酸素水塊が生物の死滅、細粒堆積物からの栄養塩の溶出などが原因となり生態系全体に影響を与えていることについて、松岡副理事長(長崎大学教授)が報告しました。

その後、木元氏((独)水産総合研究センター西海区水産研究所)から有明海北部海域における近年の貧酸素発生状況とそのメカニズムと題し、有明海奥部と諫早湾では同時期に別々に発生していること、小潮時に発生し、大潮時に消滅していること、有明海奥部では西側の方がひどいことなどが報告されました。

総合討論で出された意見や分かったことは次のとおりでした。

■「有明海はなぜこうなったのか」に対する主な意見

- ・川の水に含まれる栄養は変わらないが、成層が強化されたことが、赤潮発生に寄与している
- ・干拓が有明海奥部に影響しているのではないか
- ・貝類が減少して、濾過量が減った
- ・何かの原因(地形の改変など)で負のスパイラルに陥っている

■シミュレーションに関して分かったこと

- ・有明海で発生している貧酸素水塊などの現象が、かなりのレベルまで再現できており、将来は再生策などを検討する際にパワフルなツールとして期待できる
- ・貧酸素水塊の解消策の検討はまだみだであるが、発生メカニズムは成層の強化、流れの変化、二枚貝の影響などある程度明らかになっている



平成22年度有明海再生に関する研究等助成事業の採択結果報告

当機構では毎年、有明海再生に寄与する研究等の活性化を図るため、正会員及び支援会員が有明海の再生に関する調査・試験・研究に必要な経費(国等へ研究費助成を申請するための準備調査・試験・研究を含む)の一部を助成しています。今年度は、選定委員会を7月31日に開催し、3件の応募の中から次の2件を採択しました。

<採択事業>

No	申請者	研究等の名称
1	佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター 濱田 孝治 准教授	諫早湾干拓調整池からの物質負荷推定
2	国際技術コンサルタント 株式会社	力キ礁の復活の干潟道

「有明海のなぜ？」シンポジウム【第4回】

～底質・干潟はどう変わってきたのか～

平成22年11月20日(土)、佐賀大学理工学部6号館都市工学科大講義室(佐賀市1番地)にて第4回有明海のなぜ？シンポジウムをテーマ「底質・干潟はどう変わってきたのか」と題し開催しました。

当日は、市民や研究者、行政関係者など、約110名の参加がありました。

まず、当機構干潟分科会座長の松岡副理事長が、分科会活動で取り組んできた「干潟・浅海域における底質の物質循環に関する研究」(①柱状堆積物の分析から得られる環境変遷解析と各種環境項目の時系列解析による環境変化の画期の抽出②低次生態系モデルによる環境変化を明らかにするためにモデル支援データ取得調査を湾奥部泥質干潟で展開)を報告しました。

次に、「底質・干潟を議論するための基礎知識」について荒牧副理事長が報告しました。

その後、それらの取り組みで明らかになったことを市原氏(復建調査設計(株)地盤環境部主任)と堀家氏(いであ(株)大阪支社副支社長)からそれぞれ報告していただきました。

総合討論では、速水准教授(佐賀大学)からシミュレーション結果と実測データとの比較についておおむね一致しているとのコメントいただき、山口教授(長崎大学)から有明海に生息する魚類について発表していただいたあと、会場を交えての討論を行いました。

今回のシンポジウムでは、有明海の環境が、どのように変わってきたのかということを、堆積物に残された記録やシミュレーションなど異なった手法を用いて、ある程度明らかにすることができました。

また、さらに理解を深めるためには、環境の変化と魚やタイラギ、アサリなどの資源がどう対応しているのかということ突き詰めることに取り組むことが、今後の課題となりました。



「有明海のなぜ？」シンポジウム【緊急フォーラム】

～佐賀発：有明海の未来を拓く～

これまで4回のシンポジウムを受け、有明海再生のためには何が必要かを、研究者だけではなく、漁業者、市民、行政が一緒になって発信していくことが、有明海の未来を拓くカギとなると考え、潮受堤防排水門に関する福岡高裁控訴審判決で有明海再生に関する市民の関心が高まった機会を利用して、緊急フォーラムを平成22年12月10日(金)、アバンセホール(佐賀市)で開催し、約430人の参加がありました。

フォーラムのまとめでは、「我々のゴールは開門調査ではなく、開門調査を有明海再生の第一歩として、誰もが被害を受けることのないように環境整備や調査結果の評価を適切に行い有明海異変の原因を究明すること」等の内容の『佐賀発メッセージ：有明海の未来を拓く』を発信しました。



※当日の様子(動画・発言録)や佐賀発メッセージを当機構のホームページ【<http://www.npo-ariake.jp/>】に掲載していますのでご覧ください。

支援会員募集のご案内 ※詳しくは事務局までお問い合わせください。

有明海再生機構では、当機構の趣旨に御賛同いただき、活動を支援して下さる支援会員(企業・団体・個人)を募集しております。

年会費：企業・団体… 一口 5万円 個人… 一口 1万円

支援会員の活動紹介 (有明海の再生を願い当機構の活動を支援してくださっている会員の皆様) 第13号 財団法人福岡県すこやか健康事業団 様 (旧 財団法人九州産業衛生協会、平成21年4月改名)

～大切な私たちの健康・生活環境そして自然環境の保全のため頑張っています。～

(財)福岡県すこやか健康事業団は聖マリアグループの一員として巡回健康診断や人間ドック等を通じ、住民の方々や職場における従業員の健康管理、そして私たちを取り巻く生活環境や自然環境の保全を目的に幅広い事業を展開しております。

有明海は周辺の県民のみならず日本国民にとって豊かな恵みをもたらしてくれる大切な場です。私たちは、その恵みに感謝しつつ有明海保全のため、またその周りで働く方々の健康のために環境関連職員、医療関連職員が一丸となって取り組んでおります。環境調査・分析を担当する環境科学センターでは最新の調査・分析機器を揃え、国、地方自治体、各種工場・事業場及び一般市民の方々の様々なニーズにお応えできる体制を整えております。大気、水質、騒音・振動、悪臭、土壌・地下水、生物環境等の環境、工場の作業環境に関する全ての分野に対応できる機関としてこれからも皆様のご要望に積極的にお応えして参ります。お気軽にご相談下さい。



新しく導入されたデジタル画像撮影健診車



高度分析機器 (GC-MS)

お問合せ 本部 Tel. 092-722-2511 環境科学センター Tel.0942-44-5000 ホームページ <http://www.sukoken.or.jp>

正会員のご紹介

有明海再生に関する研究を学術的に行う大学等の研究者で構成される正会員に新たに入会していただきました。

■矢野 真一郎 准教授(九州大学大学院工学研究院環境都市部門)

私は環境流体力学を専門とし、主に沿岸域、河口域、河川における流れなどの物理構造と水環境や生態系との関係を現地調査と数値モデルにより研究しています。現在、有明海全流域を対象とした水・物質循環モデルの構築、有明海における各河川の淡水影響域の評価、有明海の流れ・乱流・物質輸送などの物理構造の評価などを進行中です。また、八代海についても水俣湾の微量残留水銀動態に関する研究を、さらに筑後川上流域ではダムからの放流量が河川生態系に与える影響評価に関する研究も行っており、将来的には有明海・八代海流域圏の総合的水環境管理技術を構築できればと考えています。これらのフィールドで、現地調査をよく行っていますので、お見かけの際にはお気軽に声をお掛け下さい。今後とも宜しくお願いたします!



■片野 俊也 准教授 (佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター)

私の専門は、湖沼、沿岸海域における植物プランクトンの個体群動態です。これまで、バイカル湖、宇和海などをフィールドとして、そこでの植物プランクトン現存量の変動について現場調査と野外、室内での実験を通じて研究をすすめてきました。佐賀大学に着任する前に所属していた韓国の大学では、河川や池、沿岸海域の赤潮原因プランクトンと細菌の関連などについて勉強しました。佐賀大学では、有明海で頻発しているシャットネラ赤潮について研究をすすめています。夏の赤潮だけでなくノリの色落ちを引き起こす冬季の赤潮にも興味を持っています。



有明海研究を進めることももちろんですが、広く一般の方に有明海研究の最新成果を分かりやすく伝えることにも関わりたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。先日有明海を写真に収めようと東与賀から諫早まで朝から一日かけて回りました。途中で寄った道の駅には有明海でとれたカキや魚貝類、山で採れたミカンなどおいしそうなのがたくさん並んでいて嬉しくなりました。

この一年が皆様にとって幸多き年でありますように。本年もどうぞよろしくお願いたします。(く)

発行

NPO法人 有明海再生機構事務局

〒840-0041 佐賀県佐賀市内1-5-14 佐賀県自治会館4階

TEL (FAX兼用) : 0952-26-7050

E-mail : npo-ariake@ceres.ocn.ne.jp

ホームページ : <http://www.npo-ariake.jp/>

※H20.8月、事務所移転で住所が変わりました。電話(FAX)はそのままです。